

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（6月）

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、6月9日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの表現を据え置きました。昨年12月からこの表現をしておりますので7カ月連続です。これまで同様、持ち直しの動きが広がりをもって展開しています。最終需要項目の中では、設備投資の判断を、「持ち直しつつある」から「低水準ながらも増加に転じている」に上方修正しました。昨年12月以来7カ月ぶりの変更です。

今月は2点コメントします。

1. 設備投資の判断を上方修正したのは、短観結果における平成22年度上期の設備投資計画が、前年同期を10.5%上回るようになったことに加え、前年対比でみた非居住用建築確認申請（床面積）が大幅に増加したことが背景にあります。短観では、木材・木製品、電気機械での増加が顕著です。これまで先送りしてきた維持・更新投資に加え、能力増強投資に踏み切る先もみられます。但し、これまで長きに亘り低迷してきたあとでの増加ですので、水準自体は低いとみておくべきでしょう。
2. 電子部品関連、製材、普通合板など製造業の生産・出荷が好調です。電子部品では、携帯電話向け部品が好調で、一部はアジア向けです。製材は、機械輸出用の梱包材（カラマツ）を中心に好調です。外需に牽引されています。普通合板は市況が上向いてきたことや住宅用の出荷が増加してきたことが背景にあります。

現在、百寿大学において講義を行っています。旭川市内のいくつかの公民館（春光台、末広、東鷹栖地区）において、現役を引退された方々や主婦など地域住民を対象に生涯学習の一環として金融や経済の話をしています。日頃、経済界や行政の方々向けにお話をする機会が多いのですが、一般市民を対象に行う機会は限られています。複雑な金融経済の事象をできるだけ、わかりやすく説明しています。講義をしながら、参加者の目が輝いているのがよくわかります。学ぶ楽しさ、知的好奇心を生涯持ち続けることの尊さを感じました。

お知らせ欄にも[ご案内](#)しておりますが、7月24日に金融経済講演会を開催します。「世界一わかりやすい金融経済の授業」とのタイトルで細野真宏氏に講師をお願いします。皆さん奮ってご参加ください。

平成22年6月9日

尾家 啓之